

展示設営・施工を手がける

東京スタデオ

国内外の作家や美術館から絶大な支持を得る
設営・施工のエキスパート、東京スタデオ。絵画から
インスタレーションまで様々な作品を扱い、展示会をつくりあげる。

この部屋には、これからミシャ・クバルの作品が入ります



東京・初台のNTTインター・コミュニケーション・センター [ICC] で開催中の「ライト・イン」サイト展（～2月28日）の設営・施工風景

Profile 19

お話を聞いたのは
白井伸樹さん



制作部に在籍する白井さんは、インテリアデザインの専門学校を卒業後、1993年に東京スタデオに入社。それから16年間、一貫して展示会設営の現場に出ている。美術館から博物館まで様々な展示会を手がけるが、2000年の東京・初台のNTTインター・コミュニケーション・センター [ICC] で開催の「ニュー・メディア ニュー・フェイス / ニューヨーク」展の設置で中山タイスケの「(Under the Table)」の制作を手伝い現代美術好きになったという。その後、「横浜トリエンナーレ2001」など大型展やファッションブランドの展示会などを手がけてきた。最近の仕事に08年東京・赤坂で開催されたイベント「Akasaka Art Flower 08」、目黒区美術館の「丸山直文展—後者の正面—」などがある。

東京スタデオの仕事内容は？

展示会が始まる3～4ヶ月前から作家や展示会スタッフと作品にあわせて壁の高さ、色、素材を決めていく空間構成のミーティ

Q.仕事の魅力は？

展示会ができあがる
プロセスを体感できること

「作家やキュレーターが描く展示会のイメージを形にする、それが東京スタデオの仕事です。東京近郊の美術館や博物館の展示会を中心に会場設営を手がけ、開幕時期が集中すると1人で5会場くらい掛け持ちをすることもありますが、会場も作家も作品も毎回違うことがほとんどですが、ICCのように、何度も設営を手がけ、美術館スタッフとも仲良くさせてもらっていることも。たとえ同じ空間でも、展示会内容によってまったく異なる空間をつくりあげるの、いつも新鮮な気持ちで望んでいます。

確かに体力は必要ですし、忙しい時期は休みもなく大変な仕事かもしれませんが、もともと何もなく四角い空間に、作品が入ってきて、展示会ができあがるプロセスを体感できるのは本当に面白い。設計図と実際の寸法が違うなど、現場でのトラブルをスタッフや作家と解決していくことだって仕事の楽しさのひとつです」。

ングを始める。展示会によっては、作品に使うパーツを東京スタデオが制作する場合もある。展示会がオープンしてからも、問題があれば現場でメンテナンスをする。展示会終了後は、解体作業を行い、地方巡回展がある場合は、展示会スタッフとともに現地にかつつけます。白井さんのように現場で作業を行う制作部には23人、展示会場のレイアウトやグラフィックデザインをするデザイン部に9人、展示台やパネルをつくらしている木工工場に3人が在籍。

求めている人材は？

作品はデリケートなもの。また、現場には作家から展示会スタッフまで多くの人に関わるので人間関係を大切にしなければなりません。「作品にも、人にもやさしい心を持って接することできる人」が望ましいのだとか。仕事なので、男性メインの職場だと思われがちだが、女性も活躍している。運転免許、デザインのセンスは、ないよりあったほうがいいが、とくに資格は問わない。

募集の時期は？

現在、アルバイトを募集中。詳細は66ページ。

アクセス 今後ホームページを立ち上げ予定。



Art Job Survival Guide 2009

展示会の音声ガイド制作をする

ART&PART

展示会の音声ガイド制作を中心に美術教育普及の事業を行うART&PART。

作品をより深く味わうためにかかせないツールとして

近年ますます需要が高まり、美術館とともに日々奮闘している。

Profile 18

お話を聞いたのは
瀬川律子さん



代表を務める瀬川さんは大学で心理学を学び、新卒でソニーへ就職。オーディオ機器の企画を担当し、2年で退職し、多摩美術大学大学院で芸術学を専攻する。卒業後、白石コンテンポラリーアートに入社。東京現代美術館、横浜 NICAF 事務局などで主に教育普及と担当を経て独立。1995年、横浜に拠点を置き、美術関係のコンサルティング、リサーチ、展示会企画などを行うART&PARTを設立。その後2005年まで、欧米で最大の音声ガイドを手がけるアンテナ・オーディオ社の日本総代理店を兼務。97年、MIHOミュージアム（滋賀）の常設展示音声ガイドコンテンツ制作を担当。2000年新宿、安田火災東郷青児美術館（現・横浜ジャパン東郷青児美術館）で開催の「ゴッホとその時代 ゴッホ素描展」より制作から運営までのすべてを手がけるスタイルも開始。現在、ART&PARTでは、年間約50本の展示会の音声ガイドを制作、運営している。

ART&PARTの仕事内容は？

展示会開幕の3か月前から美術館の担当者として、展示会の企画内容、動線の確認、取り上げる作品のセレクトについて打ち合わせをはじめ。その後、学芸員のチェックを受つて、原稿を作成して展示会の雰囲気にあったナレーターをキャスティング。スタジオ収録では、お客様をきちんと誘導できる内容が、耳障りな言葉遣いではないか、入念にチェックを重ねていく。同時に、展示会開幕の直前には、会場であらためて紹介する作品の内容や位置を確認。実際見ただけではわからなかった部分を書き直し、編集または再録をする。このほか、会場入口での機器受け渡しなど運営業務も行う。

求めている人材は？

美術だけでなく、博物館の展示会なども手がけているのでART&PARTには、文化系全般に興味がある人が多いそう。音声ガイド制作は、文章力、読解力があり、細部まで気配りのできる人がよいという。会場運営スタッフの管理は、展示会入口に立つので美術館の顔をマネージメントする仕事。また、運営担当者は、音声ガイド機器の貸出をするアルバイトの研修も行うので、リーダーシップ能力も必須。瀬川さん曰く「体育会系のような、明るく元気な人」が向いているのだとか。

募集の時期は？

欠員があれば主にホームページで行う。現在、募集運営スタッフとWEBを管理するスタッフを募集している。詳細は65ページ。

アクセス www.artandpart.co.jp

奥の録音ブースには「情熱大陸」のナレーションでおなじみの窪田等さん。手前左からART&PARTの西さん、瀬川さん、今回の収録スタジオ「エフエムサンズ」の内田さん

Q.仕事の魅力は？

展示会と観客をつなぐ役割を
果たしていること

「ART&PARTは美術館の教育普及事業を手がける会社です。現在は、展示会の音声ガイド制作から、会場での機器貸出などの運営までをメインに行っています。私たちが心がけているのは作家や作品を少しでもわかりやすい言葉で伝えること。展示会担当者、つまり専門家の言葉を、身近に感じられるエピソードを追加するなど、お客様と展示会をつなぐ役割を果たしたい。また、必ず会場には足を運び、音声と作品にズレはないかチェック。作品が運ばれるのはオープン数日前なので、ぎりぎりまで収録をします。当日に会場で編集なんてこともありますが、クオリティーの高いものを、お客様に提供して喜んでくれたときの充実感は何ものにも代え難いですね。

欧米では音声ガイドは展示会の必需品。あるかないかでは動員が違うそう。日本でも、もっと多くの人に音声ガイドを楽しんでもらいたいですね」。

美術館で開催中の「チャロレーインディ」展収録。開幕を目前に、収録も終盤にさしかかっています

